



— 発 行 者 —  
福島県公立学校退職校長会  
福島支部長 鈴木 昭 雄

— 編集広報部 —  
— 題 字 —  
第126号 高橋 藤園

# 「個別最適な学び」の場

福島市教育委員会学校教育課長

穂 積 浩

本年四月十六日に福島市立福島第四中学校天神スクールが開校した。県内初、東北でも仙台に続いて二番目の公立夜間中学である。教育機会確保法の制定後、全都道府県・指定都市に公立夜間中学を少なくとも一校設置するという政府の方針を受け、本市市長が令和三年十一月に設置を表明したことにより、県教育委員会等の協力を得ながら開校の準備を進めてきた。県内初ということで、夜間中学の施設や教育課程などについてわからないことが多く、開設準備室を設置し他の都道府県の公立夜間中学を視察しながら、準備を進めてきた。教育目標を「夢をもち、自らの可能性に粘り強く挑戦する生徒」とし、その実現のための教育課程を編成するとともに、市の中心部という利便性を活かして、市総合教育センター(福島四小の北校舎)内に教室等を整備しての開校となった。

天神スクールの入学要件は、県内に住み学齢を超えている方

の中で、中学校を卒業していない方、中学校を卒業しているが不登校等により十分な義務教育が受けられなかった方、外国籍の方で日本の義務教育に相当する教育を受けられなかった方となる。教職員については、県の公募制により、高い志を抱いた教員が配置された。



木幡市長、佐藤教育長と代表生徒による開校式

の教室で学んでいる。仕事を終えてから登校してくる生徒もいるため、学校の授業は夕方五時半から始まる。授業は毎日四校時で、九時前には下校となる。授業においては、全ての教科で複数の教員が指導しており、特に習熟に大きな差がみられる国語・数学・英語の三教科については、教育相談や学習アンケータをとおして生徒と教員が相談し、コース別の学習体制を整えている。生徒のニーズに応じて、小学校段階の学習内容を一部取り扱うなど、柔軟な学習活動を行っている。タブレット端末も他の中学校同様一人一台配置され、学習に使用している。授業を参観してみると、一人一人に丁寧に指導する教師も自分のペースで安心して学習に取り組む生徒も、大変表情がよく、生き生きしている。

令和三年に出された中央教育審議会答申では、「個別最適な学び」について示された。これは、学習者の側にたった「指導の個別化」と「学習の個性化」のことである。児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な設定を行う「指導の個別化」、指導生徒の興

も様々だ。そんな生徒達が一つ



生徒の学びに寄りそう教師

味・関心等に応じ、教師が一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組み機会を提供することで、児童生徒にとっての学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を重視していかなくてはならないということである。天神スクールの学びの様子を見ていると、まさにこの「個別最適な学び」の場となっており、教育の原点を見ているように感じる。

公立夜間中学の出席率は全国的に七割程度と言われる中、天神スクールの一学期の出席率は九割以上と非常に高い。教員が生徒に丁寧に寄り添い、生徒も教師を信頼し、安心して学校生活を送っていることがうかがえる。生徒一人一人を大切にしたい。「オーダーメイドの教育」をキーワードに、夢の実現や自分らしい生き方を支える教育活動を今後も一層進めていきたい。

### 今、中学校では

## オリンピック型から、パラリンピック型へ

福島地区中学校長会 会長 熊谷幸司  
(福島市立大鳥中学校長)

猛暑の夏がようやく終わりを告げ、必死に頑張っていた学校のエアコンも少しほっとしたように感じられます。中学校では、学習の秋や芸術の秋など、それぞれに特色ある教育活動が展開されているところです。

以前、授業を料理に、教師をシェフに例えた話を聞いたことがあります。

料理を作るときには、食材は何にするか、下処理や下味は必要か、どう調理するか、どんな栄養が得られるか、そして、何よりおいしく食べられるか。このようなことを考えるのではないのでしょうか。授業を作るときには、どんな教材で興味関心を高めるか、教材の特徴やよさをどう生かすか、どう指導すれば興味深く深い学びになるか、どんな資質能力が児童生徒に身につくか、達成感を得られるか。いろいろなことを考え授業の計画を立て実践します。当然のことながらシェフが違えば、出来

上がる料理は全然違います。授業もしかりです。

現在、福島県は「学びの変革」を掲げ、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換を進めています。言葉を変えれば、「教師が教え込む授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への転換です。料理で言うなら、自分で必要な栄養を考えさせ、そのために食材を選ばせ、最適な方法で調理して食べられるように、シェフは手本を見せて導く、ということでしょうか。児童生徒の多様な思いやニーズに寄り添っていく授業が必要とされています。

今夏、パリではオリンピックが開催され、パラリンピックを含めたくさんのメダリストが誕生しました。パラリンピックでは障害があるから競技ができないのではなく、障害に応じて「できる」ように競技が考えられています。車いすテニスでは2バ

ウンドまで認める。視覚に障害があれば、サッカーではボールから音が出るようにする、マラソンなら一緒に走る人がいる。多様性に配慮して競技のルールを工夫し、時に支援する仲間の協力を得て、誰もが素晴らしい力を発揮していました。

これまで学校は、みんなが同じ内容を同じ時間に、同じ教室で学ぶ「同質性」が基本でした。オリンピックのように同じルールの中で成長を目指してきました。「生徒が主体的に学ぶ授業」では一定の目標をすべての子どもが達成することを目指し、様々な方法で学習を進める「指導の個別化」と、個々の目標に向けて、学習を深め広げる「学習の個性化」が必要です。これからの学校は、オリンピックの「同質性」から、パラリンピックの「多様性」に配慮したルールや支援への転換が求められます。オリンピック型からパラリンピック型へ、カリキュラムも学びのスタイルも支援の在り方も見直すことで、すべての子どもたちが「できる」喜びにあふれる学校にしたいと考えています。

今後とも、退職校長会福島支部の皆様には、ご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 賀寿万歳

工藤忠先生・田中光雄先生宅を訪問

令和六年九月二十九日、工藤忠先生の賀寿のお祝いをお届けに、鈴木支部長、持地事務局長、広報担当の三人でご自宅を訪問しました。



前日の誕生日には近所に住むお孫さんも来てお祝いをされたとのこと。訪問に際し、自ら長年愛用するワープロで作成した資料をご準備され、他県を含め会津や相馬でも勤務された四十年間の教職歴を詳しくお話いただきました。

先生は、ご退職後もお住まいの地区や福島市の老人クラブ、社会福祉協議会、ゲートボール協会等の要職を務め毎日元気に過ごされています。訪問日当日も、地元社会福祉協議会の広報部長として防災訓練に参加された

とのことでした。

令和六年十一月九日、福地飯坂A方部理事に案内していただき、田中光雄先生の賀寿のお祝いをお届けに、鈴木支部長、持地事務局長、広報担当の四人でご自宅を訪問しました。

訪問日は先生の誕生日。先生は体調管理のため約一月前に入院。当日病院から自宅に戻られ、近くに住む娘さんとともに我々をお出迎えいただきました。先生は県内各地の県立学校や教育委員会にご勤務。最終勤務校は若松商業高校でした。それぞれの勤務先で地元の皆さんや職員との交流を深め充実した日々を過ごされたと、娘さんからお聞きしました。



晴天に恵まれた当日。我々の訪問後、紅葉を見に親子でお出かけされるとのことでした。

### 本年度喜寿祝い会員の皆様 (昭和二十三年生まれ)

- |             |            |
|-------------|------------|
| 御山 花見 剛様    | 御山 高橋 一雄様  |
| 岡山 真鍋 ヒロ子様  | 吾妻B 渡部 常夫様 |
| 西部A 鶴沼 秀雅様  | 松川 半沢 俊春様  |
| 南沢又A 矢館 清孝様 | 吾妻A 室井 君男様 |
| 飯坂A 藤裕 兒様   | 吾妻B 大田 勝寛様 |
| 宮代 萩 様      | 渡利C 大竹 明様  |

# 喜寿を迎えて

## 改めて初任地のことを

西部A 鶴沼秀雅



喜寿祝いの記念撮影の案内をいただき、「えっ、もう喜寿に」と思った。この間の人生の中で一番の思い出は、やはり教職に就いた時のことであろう。

最初の赴任地は只見小学校入叶津分校。まだ積雪が二メートル近くあり、南極探検隊ならぬ雪上車での赴任。職員住宅兼教室の分校。そこに担任一人、一年生一人、二年生四人、三年生四人、計九人。いわゆる複々式学級。もちろん教育実習で複々式指導のことなど触れないまま、戸惑いの毎日であった。そういうわけで、今でも当時の子どもたちには申し訳ない気持ちでいっぱいである。そんな折、先日、当時担任した子の一人が「福島県農業賞」受賞と掲載されていた。「あの入叶津で民宿を営み、一人で地域の米作りを一手に引き受け、どぶろくや甘酒を造ったこと」に対する表彰」とのことであった。来年二月には、県物産館での物産展に来福とのこと。待ち遠しい。さらには二十六年度に分校前の国道二八九号線が新潟まで開通予定。訪れてみたい。

# 喜寿を迎えて

吾妻A 室井君男



今年、数え歳の字のお祝いの歳を迎えることができましたのは、

まさに果報もここに極まりりといった心境ではあるが、周りを見渡してみると、私の歳を超える先輩や大先輩がおいでになり、「お前はまだ若造だな」というような、私への視線を感じることがある。まさに、地球温暖化をはるかに超えるスピードで、日本の高齢化が進んでいることを実感している年でもある。幸運の吉数と言われる七十七歳は、人間の平均寿命が今日ほど長くなかった唐の時代からこれまで、古希に勝るめでたい長寿の祝い年とされてきたが、今の日本では、平均寿命に近い「めか」「ずいぶん長生きしたな」といったような思いや実感が全く湧いてこないから不思議である。ただ、喜寿の年齢を迎えたお陰で、時代の流れや社会構造の変革に併せて、知らないうちに、自分の感覚や感性も変化してしまっているということに気づくことができた。どうせなら、この際だから、時代の波に併せて、米寿・白寿まで生きてみようかな。



# 喜寿を迎えて

吾妻B 田村勝寛



この度は、喜寿のご祝詞と記念品をいただきありがとうございます。

退職後は、飯坂・吾妻の二つの学習センターに勤め、家庭教育の学習級の開設や分館と本館の連携に努めました。学校教育だけでなく、生涯学習・社会教育の分野にもかわることで、改めて教育の奥の深さを認識させられました。地域の方々と知り合えたことも財産になりました。その後は、町内会長として地域の課題解決に取り組んでいまして。空き家が増えた上コロナ禍もあり、今一番の課題は、会員相互の連帯意識を高めることです。解決策の一つとして、町内会の構成単位である班の活性化を図る事業を展開しています。退職直後から退職校長会福島支部の釣りクラブに所属し釣りに興じています。釣りクラブでは、海釣り・ワカサギ釣り・マス釣り等の多様な釣りを月一回のペースで開催しています。自然の中で釣り糸を垂れ、会員と楽しく過ごすことで心身のリフレッシュができるので、今後も続けていくつもりです。

# ふれあい広場

—クラブ賞・活動紹介—

## 陶芸の醍醐味

陶芸クラブ 我彦 武

写真クラブ写真展

「ほほえみ」に出会える日々

陶芸クラブに入会して早十二年、いまだに試行錯誤の中、粘土に向き合い奮闘中です。陶芸は、粘土の成形から、素焼き、絵付けや細工を施し、釉薬をかけ、本焼きをして完成となります。約二ヶ月の期間を要しますが、窯の蓋を開ける瞬間は、何物にも代えがたい期待とドキドキ感があります。しかし大抵は「またしても失敗か」とと落胆することの方が多いです。それでも失敗の原因を考え、次回へ生かすことが新たな挑戦となり、意欲が湧いてきます。色々な想いが、色や形となつて現れるのが陶芸の一番の醍醐味と考え、今日もろくろに向かっています。



最新作スマホ置き

今年度、結成十九年を迎えた退職校長会福島支部のフォトクラブ・T(代表・山寺精吉氏)。同クラブの二年に一度の写真展が、令和六年十月十七日から二十日まで開催されました。今年度二名の新会員が加わり、通算八回目となります。今回のテーマは「ほほえみ」。一回の定例会を開き、会員相互の研鑽に努めている同クラブ。今回は十名の会員から四十二点、「ほほえみ」コーナーの小品も含めて総数七十五点の力作が展示されました。



会場を訪れた人は、一点一点にじっくり見入り、会員から作品の説明を受けながら、写真展を満喫していました。

# ふれあい広場

― 方委会員紹介 ―

## 恩送り

松川 庄司 久子

私は退職後に三年間、学校司書として大好きな本に関する仕事をさせていただきました。そして今、孫三人を含む八人家族の専業はあばをしています。

保育園・幼稚園・小学校・習いごとの送迎、掃除・洗濯・食事の支度などの家事全般を一人でこなし、買い物などは買出しと呼ぶレベルで、体力勝負の日々をすごしています。

先日、同居している娘に「健康にはくれぐれも注意して私が退職するまでよろしくね」と言われました。

しかし、思えば私も現職時代は姑にたいへん世話になったなと我が身を振り返ったとき、先輩から言われた言葉を思い出しました。

「恩返ししたいときには、その相手はもういないことが多々ある。自分がしていただいたことを次の世代にすること。それを『恩送り』と言うのだよ」

そうか、これが『恩送り』かと、しみじみ思い出し、もうひとふんばりするかと決意を新たに

にしました。

それにしても体力が一番大事ということで、猛暑を言いわけに中断していたウォーキングを再開した今日この頃です。

## 古稀

北部A 半澤勇一郎

「人生七十古来稀なり」という年齢になりました。

退職してから十年間は、あっという間に過ぎてしまいました。

退職後、七年間は福島県体育協会でスポーツ少年団に関する仕事をやる機会に恵まれ、私にとつては至福の時間を過ごすことができました。

スポーツ界を支える小学生から、オリンピック選手まで幅広い年齢層の皆さんと接することができ、大変勉強になった日々でした。

最近、午前中は現職時にはできなかった庭木の手入れをし、午後は、幼稚園から帰ってくる孫と一緒に過ごし、夕方からはバスケットボールのスポーツ少年団の指導をするという生活を送っています。

スポーツ少年団の指導は、体が動かなくなるまで続けてい

うと思つていますが、スポーツの指導法は、日々進歩しており、若い指導者の方々に教えていただきながら、研修に励んでいます。

のんびりと平凡に、家族に感謝しながら、好きなことをして生活できたら最高ですね。

そんなことを目標にしている今日この頃です。

## 新しい生活

岡山 吉井 秀樹

四月一日降格降任辞令を拝命し福島商業に勤めています。十年ぶりに教諭としての学校生活は、古くて新しい毎日です。

授業と教務、サッカー部顧問の職務分掌をこなしながら、令和七年度全国産業教育フェア福島大会の準備をしています。

忙中閑あり、北アルプスに行つてきました。錦秋の潤沢と雪のモルゲンロートは見事でした。退職金で新しいテントを買いたいです。

西部C 佐藤 憲博

定年延長で校長職も特例任用となった。役所広司は映画パークエクト・デイズで、毎日やるべき仕事をていねいに行い、自

## 要望活動を行いました

鈴木支部長、持地事務局長が、九月三十日に福島市教育委員会、十月二日に川俣町教育委員会を訪問し、九月十三日の福島支部第二回理事会で協議された要望内容を説明するとともに懇談を行いました。

## 福島市教育長

一斉オンライン授業の日を九月に実施しました。全員に配布されているタブレットは、個の把握、情報共有などの面に活用

されています。

四月に開校した「天神スクール」(公立夜間中学校)では、十代から八十代までの方々が意欲的に学んでいます。

## 川俣町教育長

山木屋三匹獅子舞(町指定重要無形文化財)の継承のため小学生を募集して十月例大祭に向けて練習をしています。

放課後の小学生に対して居場所づくりと子育て支援の両面から町の各施設で行っています。

教育、子育て支援、文化事業などの課題に地域に密着した形で取り組んでいます。

どこに出かけたり、学校公開やトレッスンの担当をしたりと、多岐に及ぶ仕事をしています。

週四日、九時から十七時までの勤務が基本で(残業もありますが)、しかも、机に向かっていると黙々と仕事をする勤務も多く、学校との違いに当初かなり戸惑いましたが、なんとかやっていきます。

## 編集後記

今年の秋は地元のお祭りも運動会もコロナ禍前の状態に戻ってひと安心。不安なことは本号の無事なる発行。執筆依頼と取材、原稿作成、紙面割付、……これでいいのかなあ。